

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 復興支援－13

| | |
|---|---|
| 学校名・団体名 | 仙台市立南小泉小学校 |
| HPアドレス | http://www2.sendai-c.ed.jp/~nansho13/ |
| コース | 学校支援 |
| 活動・研究 テーマ | 「人と人とのつながり～震災といのち、今、自分たちにできること」 |
| <p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>児童が自分たちにもできる復興の取組として活動してきた「スマイル・コットンプロジェクト」は、4年を経過し、4学年を中心に「総合的な学習の時間」の授業として定着してきた。来年度は震災を経験していない児童が入学する。震災の被害を受けた荒浜に居住する方々の思いを児童なりに受け止めて、今後も「震災といのち」をテーマにした学習を継続することで、震災の記憶を風化させること無く、「自助・共助」を伝える重要性を感じている。</p> <p>児童は、歴史やそこに住む人々の思い、自然や環境について理解を深め、「ありがとう」「がんばってください」など挨拶の言葉が自然に言えるようになってきている。互いを思いやる気持ちが育まれ、今後は更に自己肯定感を高めることができると期待している。</p> | |

<各学年の活動の実際>

【3年】4～12月 町探検をしよう（防災マップ作り）

- ・地域の農家や畑の見学，お寺での連句とお茶の会など徒歩で学区内の校外学習を実施し，自分の地域の防災にかかわる施設や工夫を確認した。
- ・外部講師を招聘して自助・共助について学び，自分にもできる防災の取組を考えた。

1～2月 発表会をしよう（南小泉もつと調べ隊！発表会）

- ・グループで防災マップを作成し，災害時の行動を予測した。
- ・授業参観で「防災マップの発表会」を開き，災害時に活用できる施設や設備を紹介した。

【4年】4～12月 綿花を育てよう（栽培・除草・被災地での交流活動）

- ・荒浜地区の方から，震災当日と綿花栽培の現状を聞き，復興のための取組について理解した。
- ・「一人一鉢」「力を貸してください」をキャッチフレーズに児童が地域に綿花栽培への協力を依頼した。
- ・荒浜の方とコットン畑の除草をしたり，現在の荒浜地区を見学したりする体験をとおして今後も継続した活動が大切であることを理解した。

1～3月 綿花を収穫しよう（綿花の贈呈式）

- ・地域に呼びかけ，育てた綿花を集めた。
- ・荒浜の方への贈呈式を児童自らが企画している。PTA 役員，協力いただいた市民センターの方や老人クラブの方を招き，贈呈式の後に歌やゲームを楽しんだり，復興への思いを語り合ったりする予定である。

【5年】4月～8月 復興の状況調査（震災と環境・七郷堀と荒浜の現在の姿）

- ・校外学習で七郷堀を徒歩で観察し，その役割と歴史をゲストティーチャーから学んだ。

8月～3月 綿花を収穫しよう・復興の状況調査発表会

- ・校外学習で取り組んだ震災後の地域の様子や環境，歴史についてまとめて，授業参観の機会に発表した。

2月～3月 綿花の贈呈式

- ・3年間の関わりに感謝の気持ちを伝える。

【6年】4～12月 綿花を育てよう（栽培）

- ・一人一鉢ずつ綿花を栽培した

10月～2月 復興に関わる人に学ぶ（職場体験・仙台朝市）

- ・仙台朝市での職場体験と震災の際に朝市が果たした役割，働く人の思いを体験を通して学ぶことができた。
- ・ボランティアとしてPTA バザーで綿花製品の販売を手伝った。

2月～3月 綿花の贈呈式

- ・3年間の関わりに感謝の気持ちを伝える。

<取組の効果>

- 3年生は町探検の学習と結びつけて，防災マップづくりを行った。自分たちが毎日過ごしている身近な地域を徒歩で調査した。ゲストティーチャーから「自助・共助」について指導を受け，大人だけではなく自分たち一人一人ができることを実践する大切さを実感した。授業参観では発表会を開き，保護者から質問を受けたり称賛されたりして自信となった。
- 4年目を迎えたスマイルコットンプロジェクトの取組は4学年を中心とした「総合的な学習の時間」の学習として位置づけた。荒浜の方から震災当日の体験談を直接聞き，これまで，どんな思いでどのように復興への取組を続けているのか，児童は現状を真剣に受け止めて，地域へコットンの栽培を呼びかけたり，荒浜のビニルハウスで除草作業を手伝ったりした。現在の荒浜の様子を実際に見たことで，未だに以前のような生活を取り戻すことができない地域があることを理解し，自分たちができる復興への取組を実践しようという思いを新たにした。
- 児童が市民センターや近所の方に綿花栽培の依頼をした。一人ではできないことも，多くの人の善意と協力により，大きな力となり支援につながることを実感できた。
- 綿花の贈呈式には，PTA の代表の方や市民センターの方，老人クラブの方を招待して，一人一人が言葉を述べながら綿花を手渡す場を設定したり，みんなで歌を歌ったり，ゲームをしたりする計画を立てている。
- 5年生は地域の自然環境の調査と，古くから伝わる地域の産業について調査を行った。震災後の自然環境の変化や魚や鳥の生態などについても学び，授業参観で発表会をした。
- 6学年児童が仙台朝市での体験学習を行った。仙台朝市の歴史や震災時における取組，果たした役割について講話を聞き，働くことのすばらしさや難しさを実感できた。